

## □ これまでの調査結果(概要) □

①日本以外においてコンピュータを用いて看護師等資格試験を実施しており調査可能な国<sup>1)</sup>を対象とした調査、②日本国内においてコンピュータを用いて看護師等以外の職種における資格試験を実施している機関・仕組み<sup>2)</sup>を対象とした調査、その他の先行調査から、以下に示しております。

1) 米国、英国、カナダ、韓国

2) 情報セキュリティマネジメント試験、電気工事士試験、自動車整備分野特定技能評価試験、農業技能測定試験、介護技能評価試験、共用試験(医学)、等

○ CBT 導入例における出題/解答方式

- ・資格試験では、主として、一画面上にひとつの多肢選択式問題が表示され、マウス等を用いてひとつまたはふたつ程度の正解肢を選択する方法が用いられている。しかし、ICT の発展に伴い、様々な出題形式が検討されている。
- ・問題には、知識を想起し解答する型、知識を用いて判断し解答する型がある。いずれも文章、視聴覚材料、動画等も用いられており、これにより、より臨床の状況に即した出題が可能となっている。
- ・PC 上の一画面上にひとつの問題を提示する場合には、いったん解答したら前の問題には戻れない方式が採用されているものもある。この場合、ある問題の選択肢が、次の問題解答のヒントとなるような連問が出題されることもある。

○ CBT 導入例における問題作成および試験実施方法

- ・紙試験と同様に1つの問題セットを作成しこれを PC 上で出題して PC 上で解答する方法、大量の問題プールを準備しこの中から難易度をそろえた問題セットを複数作成し、試験日ごとに異なるセットを用いて出題する方式、同様の問題プールの中から受験者一人一人に対し異なる問題を出題する方式、等が用いられている。
- ・問題セットを複数作成したり、受験者ごとに異なる問題を出題する方式においては、全国一斉の同一日ではなく、試験日が一定の期間中に複数日設定されている(学校や個人によって試験日が異なったり、同一年度内に複数回の受験機会がある)。

○ 問題プールを用いた CBT 導入例における公平性・公正性の担保

- ・問題プールから複数年にわたって繰り返し出題することで、問題の難易度を査定しこれをもとにセット化することで、年度ごとの難易度を安定化させることが可能となる。
- ・同じ問題を繰り返し出題することとなるので、同じ問題の露出頻度を減らすために、大量の問題を作成してプールしておくことが必要なる。
- ・同上の理由から、過去問題は非公開とする必要がある。
- ・PC の使い方や問題の例、解答方法についての詳細なマニュアルが準備されている。

○ CBT 導入例における実施に必要な設備や会場

- ・試験会場は、受験者人数分の PC が設置でき、WEB 環境が整備される必要がある。
- ・試験問題の漏洩を防ぐため、メモや筆記用具等の持ち込みを防止する荷物置き場が必要となる。
- ・試験会場は試験機関独自の施設を用いている場合、小中学校や大学等の教育機関の会場を用いている場合、一般の試験業者の会場を用いている場合がある。